

令和8年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校創立以来の教育方針である「質実典雅」「文武両道」を旨とし、自ら学び、自ら考え行動する心豊かでたくましくバランスのとれた、国際社会に貢献する人間力あふれた人材を育成する。

- 「グローバル・リーダーズ・ハイスクール(GLHS)」として、地域にねざしつつ、積極的に国際交流活動を行い、国際感覚の育成をめざす。
- 生徒の進路実現に向け、大学との連携等を通じて学習活動の充実を図り、コミュニケーション能力、問題解決能力、科学的思考力を育成する。
- 生徒の自主性を重んじ、生徒会活動や部活動の活性化を図り、グローバルリーダーとしてふさわしい人格の形成をめざす。

2 中期的目標

1 「確かな学力」の育成と進路実現への支援

(1) 「確かな学力」の定着と学びの深化

- ア より高い授業力を求め、研究授業や授業アンケートなどを活用して教員の授業力向上を図る。
- イ 1人1台端末など ICT 機器を効果的に活用し、生徒の興味・関心を高める授業の研究・実践を行う。
- ※ 学校教育自己診断（生徒）における「授業の工夫」に対する肯定率 90%以上を維持する。(R5 92% R6 94% R7 96%)
 - ※ 学校教育自己診断（生徒）における「興味を感じる授業」に対する肯定率 85%以上を維持する。(R5 87% R6 84% R7 87%)
 - ※ 学校教育自己診断（教職員）における ICT 機器の活用に関する肯定率 90%以上を維持する。(R5 98% R6 98% R7 98%)

(2) 観点別学習状況の評価に基づいて、評価を指導の改善に生かすという視点を重視し、授業改善を一層進める。

- ア 「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成するため、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を推進する。
- イ 探究活動を通じて、「社会に貢献しようとする意識や意欲」「課題発見力」「発信力」「科学的リテラシー」などを育成する。
- ※ 学校教育自己診断（生徒）における「授業満足度」（授業は必要な力がつく）の肯定率 90%以上を維持する。(R5 96% R6 96% R7 97%)
 - ※ 学校教育自己診断（生徒）による探究チャレンジへの肯定率 75%以上を維持する。(R5 77% R6 79% R7 83%)

(3) 生徒が自己の将来像を描き、希望の進路を実現するための指導と支援の充実を図る。

- ア 飯盛セミナーや大学研究室訪問など、大学や企業で活躍する社会人から学ぶ機会を設けてキャリア発達を促す。
- イ 授業の工夫や自習室の開室などにより、生徒に自学自習で学ぶ習慣を定着させる。
- ウ 大学入試の傾向及び生徒の学習状況を分析し、生徒の状況に応じた講習・補習等を行ない、自学自習の効果を向上させる。
- ※ 学校教育自己診断（生徒）における、「先生は質問によく答えてくれる」の肯定率 95%以上を維持する。(R5 100% R6 99% R7 100%)
 - ※ 国公立大学合格者数 200 名以上 (R5 184 名 R6 210 名 R7 172 名)、京都大学・大阪大学・神戸大学の合格者合計 70 名以上 (R5 59 名 R6 75 名 R7 50 名) をめざす。

2 社会に貢献できる「豊かでたくましい人間性」の育成

(1) グローバル社会においてリーダーとして活躍できる資質の育成。

- ア 充実した生徒会活動、部活動等により、たくましい人間力を育成する。
- イ 身だしなみ・挨拶・マナー等の指導を徹底するとともに、社会貢献や人権に対する意識の向上を図る。
- ※ 部活動の加入率 95%以上を維持する。(R5 98.9% R6 99.1% R7 98%)
 - ※ 複数の部活動における近畿大会以上への出場を継続させる。(R5 8部 16種目 R6 8部 9種目 R7 5部 8種目)
 - ※ 生徒学校教育自己診断における「挨拶をよくしている」の肯定率 80%以上を維持する。(R5 78% R6 85% R7 85%)

(2) 社会人基礎力となるコミュニケーション能力等の育成。

- ア 英語スピーチ大会（如月杯）、2年生の探究チャレンジ発表会（2回）などの取組みを通じて、コミュニケーション能力、主体的に協働しながら課題に取り組む力や表現力の向上を図る。
- ※ 校外での各種コンクール等の入賞数毎年 10 件以上をめざす。(R5 8 件 49 名 R6 13 件 58 名 R7 16 件 63 名)

(3) 国際的な視野を広げ、異文化を理解するため、国際交流活動を充実させる。

- ア 台湾、オーストラリア、ベトナム、タイなど海外との交流を活用し、大学や関係機関の協力を得ながら、グローバルリーダーの育成に取り組む。
- イ 国際共通言語としての英語が使えるよう、4技能統合型の授業や講習の充実を図り、実用英語力の向上を図る。
- ※ 学校教育自己診断（生徒）による国際交流の取組みの満足度 90%以上を維持する。(R5 94% R6 94% R7 95%)

3 学校力・教員力の向上

(1) 機動力のある組織体制づくり

- ア 様々な教育課題に迅速かつ柔軟に対応できるよう、校内の各種会議の連携を密にして情報の共有を図り、組織の機動力を高める。
- イ グローバルリーダー育成のための教育活動が更に推進されるよう、組織体制と業務内容について見直しと効果検証を継続的に行う。
- ウ 大阪府立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進し、仕事の負担による健康リスクの減少を図る。
- ※ 学校教育自己診断（教職員）における「教育活動全般にわたる評価と検証」の肯定率 70%以上を維持する。(R5 78% R6 71% R7 79%)

(2) 研修等による教員力の向上

- ア 校内研修を計画的に実施し、本校の教職員として必要な資質・能力の向上を図る。
- イ 初任者研修や 10 年経験者研修等を活用し、OJT を通じて教員が相互に影響しあいながら教員力を向上する体制をつくる。

(3) 広報活動の充実による教育力の向上

- ア 積極的な広報活動により、本校の特色とアドミッションポリシー（求める生徒像）を発信し、本校で学ぶ意欲の高い志願者を集める。
- ※ 学校説明会への参加者総数（年間）2,500 名以上を維持する。(R5 2481 名 R6 3075 名 R7 2872 名)

(4) 安全で安心な学校生活を送れるよう環境を整備する。

- ア 個人情報の適正な管理を行うとともに、万が一事故が発生した際に迅速かつ的確に対応できる体制を整備する。
- イ 支援や指導を要する生徒に対して適切な対応ができるよう保護者や関係機関との連携を強化するとともに、校内の教育相談体制をより一層充実する。
- ウ 地震、大雨等の災害や事故等発生時の連絡体制、感染症対策の徹底を図り、適切かつ円滑な危機対応ができるようにする。
- エ 障がい等何らかの事情のある生徒が安全で安心な高校生活を送れるよう、支援検討会議を通じて合理的配慮と必要な支援を行う。
- ※ 学校教育自己診断（教職員）における「支援や配慮を必要とする生徒への体制づくり」の肯定率 90%以上を維持する。(R5 94% R6 95% R7 89%)

(5) 地域及び広く他の機関等との連携を進め、信頼される学校づくりを推進する。

- ア 部活動や学校行事などの教育活動を通じて、地域をはじめ広く社会への貢献に努める。
- イ 探究活動を通じて広く連携を進め、外部と協働した取組みや交流など積極的に行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R7年度値]	自己評価
1 「確かな学力」の育成と進路実現への支援	<p>(1)「確かな学力」の定着と学びの深化 ア より高い授業力を求めた授業研究</p> <p>イ 1人1台端末など ICT 機器を効果的に活用した授業づくり</p> <p>(2)観点別学習状況の評価の推進による指導と評価の一体化 ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進 イ 探究チャレンジ等による確かな学力の育成 ウ SSH 第Ⅲ期の目標である探究活動の地域への発信をめざす</p> <p>(3)進路実現の指導と支援 ア 進路指導計画『なわて』の有効活用 イ 飯盛セミナーなどを通じたキャリア発達の促進 ウ 講習・補習等による自学自習の効果の向上</p>	<p>(1) ア・授業見学期間を設け、授業公開・研究授業を積極的に行い、生徒の興味・関心を高める授業を実践する。 ・教科横断的な授業見学を活性化する。 イ・1人1台端末など、ICT 機器を効果的に活用した授業の研究・実践を行う。</p> <p>(2) ア・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する。 イ・3年間を通じ、それぞれの目標を定め、全生徒を対象に計画的に探究チャレンジを行う。 ウ・本校の探究活動の成果を地域の高校や中学校へ情報発信する機会を増やす。</p> <p>(3) ア・希望する進路実現に向けて、3年間の基礎学力調査『なわて』を有効に活用し、進路指導の充実を図る。 イ・飯盛セミナー、大学研究室訪問を実施する。 ウ・適切な課題の設定や自習室の開室などで自学自習の充実を図る。 ・大学入試の変化や生徒の学習状況を分析し、生徒の状況に応じた講習・補習等を充実させる。</p>	<p>(1) ア・授業見学期間の設定 ・授業アンケート全校平均 3.4 以上の維持 [3.53] ・学校教育自己診断(生徒)「興味を感じる授業」の肯定率 85%以上をめざす[87%] イ・ICT 機器の活用率 95%以上の維持 [98%]</p> <p>(2) ア・アクティブラーニング(AL)の実施率 85%以上 [91%] イ・学校教育自己診断(生徒)「探究チャレンジ」の肯定率 80%以上 [83%] ウ・北河内探究活動交流会や探究チャレンジの公開授業への参加者 50 名以上。[52 校、81 名]</p> <p>(3) ア・学校教育自己診断(生徒)「将来の進路や生き方について考える機会」の肯定率 90%以上 [97%] イ・大学研究室訪問の参加者数 500 人以上の維持 [760 人] ウ・学校教育自己診断(生徒)「先生は質問によく答えてくれる」の肯定率 95%以上 [100%]</p>	
2 社会に貢献できる「豊かでたくましい人間性」の育成	<p>(1)グローバルリーダーとしての資質の育成 ア 生徒会活動、部活動等によるたくましい人間力の育成</p> <p>イ 身だしなみ・挨拶・マナー等の指導の徹底及び社会貢献や人権に対する意識の向上</p> <p>(2)コミュニケーション能力等の育成 ア 校内発表会への取組を通じて、能力の育成を図る</p> <p>(3)国際交流活動の充実 ア 海外との交流を活用したグローバルリーダーの育成</p> <p>イ 4 技能統合型の授業や講習等による実用英語力の向上</p>	<p>(1) ア・文化祭等の行事や部活動を充実させる。</p> <p>イ・全教員で登校時の生徒指導を行い、生徒の基本的な生活習慣に関する意識を高める。 ・地域清掃などの奉仕活動を継続的に行う。 ・生徒の人権に対する意識の向上を図る。 ・教員研修の充実を図り、教職員の人権意識の向上に取り組む。</p> <p>(2) ア・英語スピーチ大会(如月杯)、探究チャレンジ発表会(2回)などを系統的に実施し、コミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>(3) ア・SSH タイ研修や台湾修学旅行、オーストラリア研修、ベトナム医療ボランティアツアーなどの国際交流を実施する。</p> <p>イ・4 技能統合型の英語授業や講習などを通じて、使える英語力を向上させる。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(生徒)「畷高祭の工夫」に関する肯定率 95%以上の維持 [97%] ・部活動の加入率 95%以上(99.1%) イ・年間遅刻者数(自己の不注意等)の減少。[601 件] ・学校教育自己診断(生徒)「挨拶をよくする」の肯定率 80%以上を維持する [85%] ・学校教育自己診断(生徒)「命の大切さや社会のルールについて考える機会がある」の肯定率 90%以上を維持する [93%] ・学校教育自己診断(教職員)「人権を尊重した指導」への肯定率 70%以上 [79%]</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断(生徒)「発表活動のチャンスが多い」の肯定率 90%以上[96%] ・校外のコンテスト等での入賞 10 件以上 [16 件]</p> <p>(3) アイ・学校教育自己診断(生徒)「国際交流の取り組み」の肯定率 90%以上 [95%]</p> <p>イ・英語運用能力育成にかかる外部試験「TOEFL Junior」を継続実施する</p>	
	<p>(1)機動力のある組織体制 ア 職員提案型の運営体制づくり</p> <p>イ グローバルリーダー育成のための組織と業務の見直し及び検証</p> <p>ウ 教員の時間外在校時間の縮減</p> <p>エ.働き方改革の実行による仕事の負担リスク減少</p>	<p>(1) ア・各種会議や教職員研修等を通じて課題認識の共有を図り、課題解決に向けて実践する。</p> <p>イ・GL 部を中心に全校体制で探究チャレンジの指導に取り組む、地域に発信する。</p> <p>ウ・職員室のDX化や業務の精選を継続的に行い、時間外在校時間の縮減を図る。</p> <p>エ・職務の偏重をなくし、教職員全員で様々な教育活動にあたる。 ・年次有給休暇の取得を促す。 ・教職員間の情報共有に努め、風通しの良い職場環境を作る。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(教職員)「各種会議が有効に機能」の肯定率 70%以上 [74%] ・学校教育自己診断(教職員)「教育活動全般の評価と検証」の肯定率 70%以上 [79%] イ・学校教育自己診断(教職員)「探究チャレンジの取り組み」の肯定率 90%以上 [100%]</p> <p>ウ・年間の時間外在校等時間が 720 時間を超える教育職員をゼロにする。</p> <p>エ・ストレスチェックにおける職場総合健康リスク 90 以下の維持 [73]</p>	

府立四條畷高等学校

<p>3 学校力・教員力の向上</p>	<p>(2) 研修等による教員力の向上 ア 校内研修を計画的実施</p> <p>イ 法定研修を活用した OJT による教員力の向上</p> <p>(3) 広報活動の充実による教育力の向上 ア 広報活動による本校の特色とアドミッションポリシーの発信</p> <p>(4) 安全で安心な学校生活への環境整備 ア 個人情報の適正な管理と事故対応への体制整備</p> <p>イ 支援や指導を要する生徒への適切な対応</p> <p>ウ 災害や事故等発生時の体制整備、感染症対策の徹底</p> <p>(5) 外部の各機関等との交流及び連携 ア 部活動や学校行事などを通じた地域貢献</p> <p>イ 探究活動を通じた外部の各機関や学校との交流及び連携</p>	<p>(2) ア・スキルアップ研修等、校内研修の計画的実施</p> <p>イ・メンター制度により OJT で初任者、2 年め、10 年め教員の相互育成を図る。</p> <p>(3) ア・校内外での学校説明会などで積極的に本校の特色を発信する。</p> <p>(4) ア・個人情報の適正な管理と事故対応について周知徹底を図る。</p> <p>イ・支援が必要な生徒には支援検討会議が中心となり、外部専門家等との連携を図り、必要な支援を行う。</p> <p>ウ・防犯・防災計画、大規模災害時初期対応マニュアル等の内容を周知徹底する。 ・学校三師と連携し、感染症対策などの注意喚起を積極的に行う。</p> <p>(5) ア・小中学生対象のイベント等により本校の教育活動を地域に広げていく。</p> <p>イ・北河内探究活動交流会をはじめとする交流の充実や探究活動における外部機関との連携の推進</p>	<p>(2) ア・年間教職員研修の回数 10 回以上を維持する [16 回]</p> <p>イ・初任者ミーティング等、研修の効果測定を行い、肯定率 95%以上を維持する。 [100%]</p> <p>(3) ア・学校説明会への参加者数 2,500 名以上の維持 [2872 名]</p> <p>(4) ア・学校教育自己診断(教員)「個人情報に関する管理システムの確立」に対する肯定率の向上。[83%]</p> <p>イ・学校教育自己診断(教員)「支援や配慮」に関する肯定率の向上。[89%]</p> <p>ウ・全校避難訓練や避難指導の実施 2 回以上 [2 回] ・教職員救急法講習会の実施 1 回以上 [1 回]</p> <p>(5) ア・出前授業やオープンラボ、スポーツ体験等の小中学校対象イベントの実施 5 回以上。[5 回]</p> <p>イ・探究活動の参加者数の増加 [156 名]、外部機関等との連携数の増加 [5 件]</p>	
-------------------------	---	--	--	--